

旧料亭久の家(主屋・塀)

[登録日]令和2年3月18日

松江市東本町一丁目9番

大橋川面外観



やはす
矢筈に板を張った戸袋

大橋川面外観 1階玄関庇部分



開いた竹を張った天井

なぐりめんと
名栗面取り
された柱

ふなむしくらんま
舟虫食い欄間

- ◆建築年代：昭和12年（1937）
（一部増築 昭和30年代）
- ◆構造：木造2階建

■概要

旧料亭久の家は、古くは町人（職人）地であり、その後昭和6年(1931)のまち全体に及ぶ大火から復興し、活気あふれる町として栄えた東本町に立地しています。

建物の間口は5間で、南側（大橋川側）の街路に面した奥行き6間の南棟と、北側の街路に面した奥行き3間半の北棟が廊下などで繋がられています。

大橋川沿いの外観は、建物手前に蛙が乗った瓦を葺いた漆喰塀を立て、松の木を植え、矢筈に板を張った戸袋、開いた竹を張った庇の天井、玄関上部の舟虫食い欄間などの意匠を凝らした造作とともに華やかさを醸し出し料亭らしい優美な佇まいを持っています。

大恐慌や大火を克服した後の活気ある松江を伝える良質な建物です。

位置図



【市登録歴史的建造物】
旧料亭久の家(主屋・塀)